

## リンゴ黒星病の前年発生園における防除対策

## 【概要】

春期温暖化に伴い黒星病の発生生態は変化し、一次感染は従来の「開花直前」よりも早い「花蕾着色期」から、二次感染も開花期から始まっています。

この早期感染に対応し前年多発園でも効果の高い防除法を明らかにしました。

## 1 花芽の発育ステージ別の感受性 (図1)

(1) 花蕾着色期に黒星病菌が感染すると、果そう葉(葉表、葉裏)や幼果(がく片、果面、果梗)に多数の病斑を生じます。

(2) 花蕾着色期は、開花直前や落花期に比べて感受性が高くなります。

## 2 果面発病の発生メカニズム (図2)

がく片に生じた病斑が伝染源となり、直下の幼果面に感染し発病します。

## 3 前年多発園での防除対策 (表、図3)

重点防除時期に新系統剤による体系防除を実施します。

表 前年発生園での薬剤選択

重点防除時期	薬剤名	防除対象(感染部位)
花蕾着色期	カナメフロアブル	一次感染(花そう葉・がく片)
開花直前	ミギワ 20フロアブル	一次・二次感染(花そう葉・果面・新梢葉)

花蕾着色期	開花直前	落花期
		
高い	やや低い	低い

花芽の発育ステージ別感受性

## 【試験データ等】

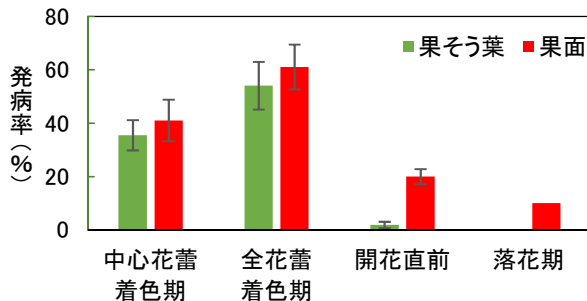


図1 花芽の発育ステージ別感受性(接種)

3品種(ふじ、王林、きおう)の平均値

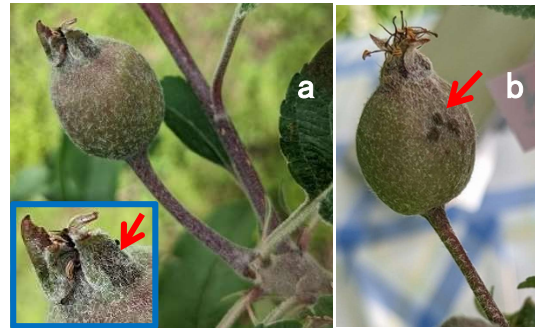


図2 がく片感染(a)と果面発病(b)の関係

※がく片感染した幼果は果面に病斑を生じやすい。

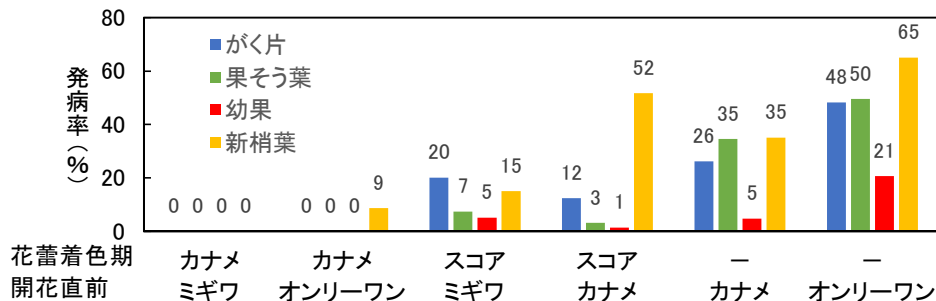


図3 黒星病の前年多発園における体系防除効果(R5年、盛岡市)

※花蕾着色期(カナメ): がく片感染を抑えることで果面発病を防止。

開花直前(ミギワ): 果面および新梢葉への発生を抑制。

【令和5年度成果】リンゴ黒星病の前年発生園における防除対策(R5-普-08)